

# 茨城三大銘茶といわれる古内茶 (JA 水戸古内茶生産組合)

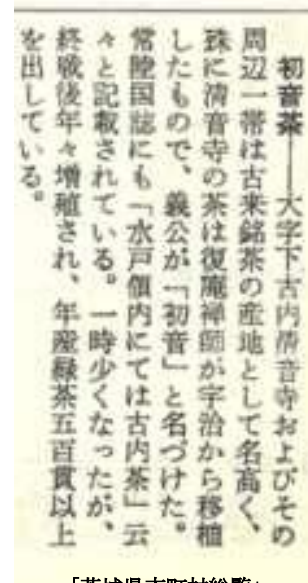


古内茶の歴史は古く、室町時代初期に栽培が始まったといわれています。

古内茶は、奥久慈茶・さしま茶と並んで茨城三大銘茶といわれており、二代目水戸藩主、徳川光圀公がその味の良さに感嘆して詩を詠まれたという話も残っています。

このお茶は当時、清音寺の境内だけに栽培するきまりがありました。 「多くの人にこのおいしいお茶を飲んでもらった方がいい」という水戸藩第二代藩主 徳川光圀公の勧めで、古内地区一帯で広く栽培されるようになりました。古い書物によれば「清音寺開山の復庵禅師が、宇治から境内に移植した。」とあり、これが本県における茶の始まりと伝えられています。

近年、光圀公によって「初音（はつね）」という銘茶号を与えられ、古内地区一帯で栽培されるようになったと伝えられている在来種は、清音寺に母木一本を残すのみとなったため、JA 水戸古内茶生産組合が主体となって、国登録有形文化財「島家住宅」において再生する取組を始めています。



「茨城県市町村総覧」  
昭和 32 年 12 月発行

## 【初音再生の推進体制】

機関名	内容
JA 水戸古内茶生産組合	8名の組合員が協力
城里町まちづくり戦略課 〃 農業政策課	地域おこし協力隊が栽培管理 資材費補助
笠間地域農業普及センター	現地での栽培技術指導
山間地帯特産指導所	苗木増殖、製茶加工、 栽培技術指導

## 【再生状況】

- 平成 29 年 4 月：島家住宅に定植（約 350 本 1.3a）
- 平成 30 年 4 月：島家住宅に定植（約 255 本 0.8a）
- 令和 2 年 4 月：島家住宅に定植（約 300 本 1.0a）

【仕上げ茶加工状況】 令和 5 年 5 月 約 1kg



国登録有形文化財「島家住宅」  
(城里町上古内 480 番の 1)